

(2面より)くみをすすめてほしいと強く要求した。また、商工観光労働部と連携し、青年層の職業訓練の充実や就労にむすび付く進路等のすすめかたを要求した。教育委員会は、県庁全体で人権施策推進協議会を組織しており、さまざまな課題に迅速かつ適切に対応できるように関係部局との連携が求められていくと回答があった。

◆総務部

人権問題をわかっている職員が多く、差別事件の事例を意識した研修をおこなってほしい。多発する差別事件について、差別者が特定されているにもかかわらず解決していない。差別事件の解決に向けた取り組みは重要。地元でおこなわれる研修などにも参加するよう呼びかけていくとの回答がされた。

◆知事室

差別を止める手立てがない部落の人には命の問題であることを訴えた。明らかになった課題解決にむけ、広報と連携し全庁的に人権啓発に働きかけると回答があった。また、不正取得にかかわって、本人通知制度が導入されたが、未登録者が多いため職員に制度を利用するよう求め

◆企画部

時間の関係上、2次交渉で。警察・公安 基本要求は、すべて済んでおり、鳴神支部の要求は昨年と同様、県と警察との三者協議をおこなうよう指摘した。

2013年も終わろうとしていく。今年、和歌山県水産庁が創立して90年という節目の年を迎え、さまざまなとりくみをおこなった。5月17日にひらいた第58回県連大会では、今日まで部落解放運動に大きな功績を残した方々を表彰し、記念レセプションを開催した。多くの先達が厳しい部落差別への怒りと一日も早い部落差別撤廃を願って闘われてきた歴史と伝統から深く学ぶことを出席者一同で確認した。

主張 今年をふりかえって

また、「石川無実」を再確認した。差別事件は、相変わらずあつたを絶たない。本年は、大手住宅販売会社Y社による差別調査・記載が発覚した。Y社の社内調査用紙に「同和」「同和地区」により、需要は極端に少なくなると思われます」と記載され、間違えてFAX送信した伊都振興局の提起で発覚した。

また、一昨年から「家を建てたいのだが、同和地区はどこか」「〇〇は同和地区か」などの問い合わせの電話が県や市町村にかけられていく。このような問い合わせ事件の背景には、土地調査を目的に、依然として部落への予断と偏見が存在し、部落への忌避意識、差別観念が露呈した事件である。

また、滋賀県八幡市から、近江八幡靴継承者の織田悟さんにお越しいただき、自分の足にぴったり合う靴の注文をうけたり、靴ができるまでの話などを語っていただいた。

狭山差別裁判糾弾の闘いは、事件から50年目を迎えて「今年こそ」再審・無罪とさまざまなとりくみがなされた。三者協議は15回を重ね、石川無罪の証拠が出されているものの、犯行現場を特定する血液反応検査報告書(ルミノール検査)が検察によって「不見当」を理由に隠されたままである。毎月23日を狭山デーとして無実を訴えてきた。また、狭山を考える強調月間では、各支部で学習会をひ

た。2回の確認会で明らかになった事実は、調査・記載したAは、過去に同和地区の案件を取り扱い、販売に非常に苦労した体験から同和地区調査をし、買ったくない物件として記載した事実が明らかになった。さらに、この記載を和歌山支店長は、見逃し、本社決済で指摘されることなく応札していたY社の部落問題への認識のなさが露呈した。

このほか、インターネットを悪用した差別書き込みはあつたを絶たない。そのようななか、相手が特定できているにもかかわらず、2年以上にわたって、差別メールを送りつけられている事件や個人のブログで執拗に差別書き込みを許可するプロバイダにたいして、なんら対応ができていない。こうした状況について、一向に有効な手だてが打て

このほか、1月におこなった「全国人権啓発研究会」には白浜町・田辺市に3500人の参加者を得ることができ成功裡に終えた。1年間をとおして、各支部でのとりくみに敬意を表するとともに、すべての同盟員が県連に結集し「よき日」のためにさらなる前進を勝ちとろう。

続発する差別事件 ふれあい人権フェスタ

ふれあい人権フェスタ 2013を11月16日、17日、ビッグホールでひらき二日間でのべ13600人が来場した。109団体がそれぞれの主張を展示したり、アリーナを使って歌や太鼓など披露する人権フェスタも今年で10回を超える。県連ブースでは、さまざまな差別事件を展示した。今年Y住宅販売会社による差別事件をはじめ、悪質な差別事件が多発していることをふまえ、来場者に差別事件について振り返ってほしい、人権とはなにかを考えてもらう機会となった。



採寸して話をする織田悟さん

また、滋賀県八幡市から、近江八幡靴継承者の織田悟さんにお越しいただき、自分の足にぴったり合う靴の注文をうけたり、靴ができるまでの話などを語っていただいた。

狭山事件を 考えよう



解放同盟でとりくんでいる運動で、住宅要求部会があることを知りました。支部長から「その運動に参加して地域のため協力をしていきなさい」といつてくれました。それからしばらくたって、女性部(婦人部)活動に参加するようにになり、狭山を知ることになりました。バスで中央集会にいくと聞き、子どもの手を引いてバスに乗り込みました。平井から善明寺、弘西と次々に参加者を乗せていく。小さい子どもたちも参加しており、それは大変でした。東京に着くと今では考えられないくらい人が多いいびつくりしました。今からなにがはじまるのかと思ひながら立っていると、さまざまな立場の方々がいろいろな話をしてくれていました。その時は、まだ何が何だかわからずに聞いていたのですが、何回か参加していくうちに、これが狭山事件であり、差別裁判だと少しは理解できるようになってきました。石川一雄さんは24歳で逮捕されてからすでに50年という長い月日が経過しています。それでも私たちの思いを無視しつづけ、検察側がもつすべての重要書類も開示しようとしません。各団体、個人からの署名があつても私たちの願いは伝わらない。今も思うことがあつた。女性部で現地視察へ行き石川さん宅の「かもい」や雑木林の現場、石川さんが事件当日歩いたとされる道を見たときは、こんな所であれば人と出会うと思つた。まして、その日は祭りだったと聞いている。警察に作られた話だ。この文章を書いていても悔しさが込み上げ、腹立たしさが抜けな日々が続いている。一日でも早く石川さんは無実であるという判決がくだされる日がくることを願っています。(坂下君代)

文化の窓

「世界屠畜紀行」

著者:内澤句子 ISBN 978-4-04-394395-1

食卓に並ぶ肉。と場に從事する人への差別や偏見は、いまだに大きな問題となっている日本。では、世界ではどうか。アメリカ、インド、エジプト、チェコ、モンゴル、パリ、韓国、東京、沖縄と世界のと場現場取材した一冊。



◆お問い合わせ 県連・教宣部まで TEL 073-473-2301